

第4回 SPI（性格検査 & 能力検査）の理解と受け方

日時：2019年6月18日（火）16:20~17:50

場所：文学部B251教室

講師：和田侑里子氏（リクルートキャリア）

株式会社リクルートキャリアの和田侑里子さんをお招きして、SPIについてお話しいただきました。概要は以下の通りです。

就職活動ではもちろんのこと、インターンシップでもエントリー後に「適性検査」があり、ここでよいスコアをとらないと、面接に進めない。学生の予測と大きく異なり、企業が重視する項目の上位6項目に、性格検査・能力検査の結果が含まれている。企業の94%が適性検査・筆記試験を実施しており、SPI3は最も広く使われている適性検査である。他に、玉手箱、GAB、CABなどがあり、CABはIT系企業のプログラマ職で使われるなど、特定の業種・職種用に多用されるものがある。

適性検査には、能力面と性格面を測定するものが多い。SPIは能力検査（言語能力（国語）と非言語能力（算数））と、性格検査（基本的な資質：性格特徴、職務適応性、組織適応性）で構成され、企業における行動を支える能力のうち、面接では確認できない箇所を測定。性格検査の結果は企業には詳しく伝えられ、面接の際に使用される。なお、特別版テストでも性格検査の結果は見ることができ、面接への準備に役立つ。

受験形式は、テストセンター、Web テスティング、インハウス CBT、ペーパーテストがある。このうち、テストセンターでの受験結果は直近の受験結果を他の企業の選考に利用できる。また、テストセンターと Web テスティングでは正答率に応じて出題が変わる方式となっている。不正防止の対策がとられているため、テストセンターでの受験結果が最も信頼される。

受験時期については、ピークが年々早くなっており、現在では3,4月なので、今からの準備が必要。準備としてのステップとして、受験環境（PC の操作を含む）への慣れ、解き方の思いだしが挙げられる。

この後、学生は特別版言語・非言語 Web テスト（50 分間）を受験しました。

参加学生のコメントをいくつか引用します。

- SPI について漠然と不安に思っていたところが、少し明らかになって自分にできていない部分があった点。
- SPI を受験できる機会を知らなかったので、良かった。これからどのような点に注意すればよいかわかった。
- 実際にテストを受けることができたところ。SPI が面接にどう取り入れられているかを知ることができた点。

参加者：学生 20 名、教職員 3 名

